

各星座をラグナとする場合のステレオタイプについて

星座、ハウス、惑星についてここまで学習しましたが、各星座をラグナとした場合におのずと、それぞれの惑星の機能的吉凶が決まると共にどのハウスのテーマがどの星座や惑星に生来的に影響するかが決まります。そのことによって各星座のラグナごとのステレオタイプというものが決まってきます。

牡羊座ラグナ

ドウシュタナ 敏感な中立	Asc ケンドラ トリコーナ	マラカ 敏感な中立	トリンヤダ ウパチャヤ
トリンヤダ ウパチャヤ	牡羊座ラグナ		ケンドラ
ケンドラ ウパチャヤ			トリコーナ
トリコーナ	ドウシュタナ 敏感な中立	ケンドラ マラカ	トリンヤダ ウパチャヤ

機能的吉星	木星、太陽
機能的凶星	土星、金星、水星
中立	月、火星
マラカ	金星
備考	木星と土星が接合している場合、木星の吉意が失われる 火星は凶星に分類されているが、火星はケンドラを支配して、凶意を減じており、しかも敏感な中立である8室の象意はトリコーナ支配によって吉意に軽化していると考えれば吉星に分類される（従って、諸説存在すると考えられる）

牡羊座ラグナは、ラグナロードが同時に8室を支配するため、肉体に関して何か怪我や不幸が起こりやすいかもしれません。牡羊座は常に人々を率いて先頭を行く星座です。火の星座で運動星座で男性星座であるため、自分で行動して道を切り開くのが運命です。そして道を切り開いた後はどこかに行ってしまいます。例えば、神智学協会を設立したH.P.ブラバツキー夫人など牡羊座ラグナらしい人生でしたが、彼女の墓がどこにあるかわからないそうです。ユダヤの民を率いて、エジプトから脱出したモーゼなども典型的な牡羊座の人生でした。彼は神から十戒を授かっている間にユダヤの民がシナイ山のふもとで古い神である金牛宮を崇拜し、快楽と物質欲に浸りきって舞い狂っているのを見て、怒り狂い石板を地面に投げつけて叩き壊し、ユダヤ人に対して互いに殺し合えと命じました。牡羊座は攻撃的で怒りやすく、対等な民主的な関係を築くのが難しい性質です。このモーゼも、ユダヤ民族を率いた後は、どこかに行ってしまったのであり、消息不明です。従って、率いた後、定住とか、同じことを繰り返したりすることが苦手で、一つの移動が終わると、また直ぐにどこかに向けて移動を始めます。牡羊座ラグナの人はラグナが8室を同時に支配するからか、肉体が大変な損傷を受けたり、悲惨な最期を

遂げたりするのは、牡羊座に典型的な象意です。ラグナロードが牡羊座在住で牡羊座に惑星集中していたアドルフ・ヒトラーにしても最後はピストル自殺をして死体は焼かれてどこに行ったか分かりません。あるいはアレクサンダー大王は典型的な牡羊座の人生でしたが、オリバーストーン監督の「アレキサンダー」では最後、毒殺されたことになっています。夜の祝宴中に突然倒れ、10日間熱にうなされて死亡したらしく、毒殺だったと考えるのが自然のようです。またアレクサンダー大王の墓は未だに見つかっていないそうです。

また牡羊座ラグナは水星が6室を支配するため、猜疑心が強く、人を信じない所があります。アドルフヒトラーがユダヤ人に迫害を重ねましたが、これは牡羊座の6室目の乙女座に対する仕打ちのように思えます。

映画「ヒトラーの贖札」ではナチスが収容所のユダヤ人を使って贖札づくりに協力させた史実(国家による史上最大の贖札事件“ベルンハルト作戦”)が描かれていました。ユダヤ人の印刷技術者達がドイツ軍のナチスの将校に命じられて精巧なポンド札を作るのですが、奴隷のように働かされる様が描かれています。この様子がいかにも牡羊座と乙女座の関係のように見えます。ナチスの兵卒たちが、ユダヤ人の技術者たちに仕事をさせて、言われた通りの仕事をしているかを絶えず、猜疑心を持って疑っている様子が描かれています。

つまり、6室を水星が支配すると、猜疑心が強くなり、人を信じない所が出てきます。

計算に長けて頭のいい人物が牡羊座を説得しても、牡羊座はおそらく言うことを聞きません。牡羊座は乙女座の律儀さを軽んじて軽蔑しており、そうした態度は、織田信長の明智光秀に対する態度だったと思われる。

牡羊座ラグナの支配星である火星は4室の蟹座で減衰するので、牡羊座にとって家とか土地とか住まいと言うのは自分の行動力を減退させる大敵なのかもしれません。アレクサンダーがバビロンを陥落した後、そこに留まらないで、直ぐに敗走するダレイオスを追いかけたのはそのためであり、また映画「アレキサンダー」では母親から常に逃げていたと書かれていましたが、おそらくその指摘は正しいと思います。

牡羊座にとって木星は9室と12室を支配するため、他のあらゆるラグナと比べても最高の教師を得ます。

アレクサンダー大王の家庭教師は、あの有名な哲学者アリストテレスだったというのがその例です。

あるいは、バガヴァッド・ギータのクルクシュトラの戦いに望むアルジュナにクリシュナが御者の立場で教えを授けるのですが、このアルジュナもおそらく、クリシュナという霊的に最高の教師を得たのは牡羊座ラグナだったからです。牡羊座ラグナというのは教師を表わす木星が9室を支配して、2重の意味で教師の表示体になると共にその9室が12室を同時に支配するため、無執着に為すべきことを為すというカルマヨーガの最高の教えを授かったと言えます。

牡羊座は10室、11室を土星が支配し、特に仕事の10室は山羊座で火星が高揚する星座です。従って、仕事はハードワークになりがちで、人に命令するような仕事を求められます。牡羊座ラグナの人の適職が警察官と言われるのはそのためです。牡羊座ラグナの人は開拓者ですが、5室は獅子座になるため、その仕事を子供が引き継いでそれを治めて継続していくという象意があるようです。例えばアレクサンダー大王がギリシャからアジアに至る広大な土地を征服し、各所にアレクサンドリアを建設して、オリエン文化を創造しますが、彼の死後、彼の部下たち(弟子)が、その帝国を分割して統治したため、これは彼の部下たちが獅子座を象徴しています。牡羊座は太陽が高揚するので、5室の支配星がラグナで高揚するため、創造性に満ち、また弟子は牡羊座によって輝くこととなります。

(獅子座は9室の牡羊座でラグナロードの太陽と4、9室支配のラージャオーガカラカの火星がムーラトリコーナとなるため、牡羊座が最も幸福なハウスとなる。これは水瓶座ラグナの人が9室でラグナロードの土星が高揚し、4、9室支配の金星がムーラトリコーナとなることに匹敵する。)

仏陀は蟹座ラグナで牡羊座惑星集中でしたが、仏陀が一国の王様に教えを説くことが出来たのも、仏陀が牡羊座の象意をもっていたからであると言えます。